

で開催することになっている。従って昭和48年度は、東北支部であり、東北支部長と気象台当局の了解を得たので、東北支部の当番としたい。

議長が採決した結果全員賛成で東北支部と決定した。

(以下 373 ページの続き)

- ・上田 豊 (名大地球科学)
東南極白瀬水河流域の質量収支についての水圏科学的研究
「南極資料」ほかに分割して発表予定、
- ・藤井理行 (名大地球科学)
山岳氷久凍土に関する地球科学的研究
Nature ほかに分割して発表予定、
- ・大西晴夫 (京大地球物理)
積雲対流のパラメタリゼーションに関する研究
未発表
- ・吉門 洋 (京大地球物理)
海陸風循環の数値実験 未発表
- ・井上治郎 (京大地球物理)
高山における雪面上の熱収支 未発表
- ・佐藤和秀 (京大地球物理)
積雪の熱的性質について——南極氷圧エンダービーランドにおける解析——「南極資料」に発表予定
- ・高橋政和 (京大地球物理)
広域大気拡散の研究 未発表
- ・宮原三郎 (九大物理)
大気潮汐に対する熱拡散の影響 未発表
- ・神品達雄 (九大農業工学)
ソルゴ群落における放射関係 未発表

2. 気象大学卒業論文

議長 以上で予定された議事全部終った。時間の関係で議事の進行を急ぎ、また不手際があったことをお詫びする。ご協力ありがとうございました。

(いずれも未発表)

- ・江口一平
降水の化学成分 (NO_2^- , Cl^- , NH_4^+) について
- ・小柴 厚
地震断層モデルについての 2, 3 の考察、
- ・斎藤利夫
蔗糖, ブドウ糖, 果糖の水溶液中での氷晶の成長についての実験的研究
- ・阪本孝広
空盒の温度特性
- ・相良 格
西太平洋における地震放出エネルギーと地殻熱流量の関連
- ・杉本清秋
東京都における高濃度大気汚染と気象条件
- ・竹内 新
日本列島付近における起震応力について
- ・塚越利光
表面波理論と地球の非弾性について
- ・見立陽一
日本海 of 海底地形
- ・元木敏博
氷晶核の実験的研究・キド類フッ化物について
- ・山本二郎
地上附近の温度分布の数値計算

第 16 期第 19 回常任理事会議事録

日 時 昭和47年 4 月 17 日 (月) 15.00~18.00

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 山本, 大田, 関口, 関原, 神山, 小平, 川村, 北川, 藤原, 伊藤, 大井, 各常任理事

列席者 窪田長期計画委員長, 清水選挙管理委員長
中村, 鈴木各庶務委員

報 告 (抜萃)

[庶務] 1. 3 月 27 日 (社) 日本建築学会から第 2 回構造物の耐風性に関するシンポジウム開催に協力方の依頼がきた。委員には前回と同様相馬清二 (気研) 光

田 寧 (京大防災研) 塩谷正雄 (日大) 各会員に依頼した。

2. 4 月 5 日, (財) 松永記念科学振興財団理事長から昭和 47 年度松永賞候補者推薦の依頼がきた。締切 6 月 30 日

3. 4 月 14 日, 特許庁長官へ, 特許法第 30 条の規定に基づく指定学術団体の活動状況報告を提出した。

4. 4 月 4 日, 地方公共団体等 (公害関係) へ入会のおさそいを発送した。現在までに 3 名の入会申込みがあった。 (以下 342 頁に続く)

が、国際線における洋上等では全域をレーダー管制下におくことは恐らく不可能であろう。

残された手段は、激しいCATの空域を予知し、あるいは既にその空域に突入したときは見張り警戒用レーダー（この装置も現用航空機には装備されていないが）により、機長の責任において他機を警戒しながら、その空域を回避し、その後元の指定された航路、高度に復帰し、ATC機関に連絡するというような方法のみである。

DC-8, B-707, B-727クラスのジェット機の運航は既にかなり長期にわたるので、各航空会社、パイロット達はある程度の経験を積んできたが、運航し始めたばかりの、しかも桁はずれに大型化したB-747や、現在テスト飛行を実施中のコンコルド等にはまだ多くの問題が残されていると考えられる。

コンコルドは、マッハ2以上の巡航速度をねらっており、常用巡航高度も60,000~70,000FTと、2項で説明したtropopause上方のBの空域を飛ぶことが多くなる。またその高度まで上昇する途中に、A、およびCの空域があり、降下の際もその空域を通らざるを得ない。この種のSST（超音速機）は主として北半球中緯度地方を飛ぶものと予想されるので、かなり精度の高いCAT

(388頁よりつづく)

5. 沖縄復帰のセレモニーについて、沖縄と打合せたところ、現地からの出席は困難とのことであったが気象庁からの赴任者に出席してもらえば行なうことができる。

〔会計〕 3月分会計報告

大気放射国際会議寄付金募金状況報告（内諾額101万円入金額213万円）を承認

〔講演企画〕 大山勝通会員から学会賞受賞のため、帰国すると連絡があったので各受賞者に春季大会で受賞記念講演をしてもらう。

議 題

1. 総会準備について

理事長挨拶（案）

昭和46年度事業経過報告（案）

昭和47年度事業計画（案）

沖縄復帰に伴う案件成立後の
理事長挨拶要綱（案）

了承

昭和46年度決算書

外国文献集刊行費を含めたものに改め、監事の会計監査を受けること。

昭和47年度予算（案）

の予報を必要とするであろう。

以上「CATと航空機の運航」について述べたが、気象関係の方々のご参考になれば幸甚である。

CATについて気象協会関西本部宮本正明氏の教を受けたことを感謝します。

文 献

- 1) カナダ太平洋航空機およびBOAC航空機事故技術調査団(1966): 航空機事故調査報告書BOAC B-707, 昭和43年3月4日.
- 2) E.R. Reiter (1969): The nature of clear air turbulence: A review, Clear air turbulence and its detection, Plenum Press.
- 3) E. Palmén and C.W. Newton (1969): Atmospheric circulation systems, p. 176, Academic Press.
- 4) 杉本 豊 (1967): 高々度気象解析, 気象研究ノート vol. 94. 1-133.
- 5) Brunt (1932): Physical and dynamic meteorology, 237-243
- 6) 石崎秀夫 (1970): 雲 全日空.
- 7) E.R. Reiter (1963): Jet stream meteorology, The University of Chicago Press.

次のことを検討し、修正案を作成すること

- (1) 外国文献集および正野記念論文集刊行経費の分を計上すること
- (2) 予稿集の分を改訂すること
- (3) 昭和48年度繰越運転資金を計上すること
- (4) 文部交付金の配分は、支部の意見を聞いて行なうこと。

上記の各案は、次回の理事会に提出すること

2. その他

- (1) 夏期大学のテキストについて

第16期第15回の常任理事会で夏期大学に気象研究ノート No. 107 をテキストとして活用することを議決したが、講演企画委員会から、いつものとおりテキストを発行して行ないたいと要望が出たので審議の結果、これを承認する。

- (2) 予稿集は、増頁のため、頒布価を600円(送料を含む)とすることを承認する。

- (3) 日本気象学会長期計画委員長の経過報告案 経過報告は印刷して総会出席者に配付することを了承する。

新入会員 中島康晃外21名の入会を承認する。